

## 2018 展望

## 道路舗装



18年は20年東京五輪に向けた需要の増加が見込まれる一方で、ストレートアスファルトをはじめとした原材料の高騰や競争の激化によって、利益面は厳しい状況が続くと見

## 大成ロテック

## 西田 義則 社長

ている。

そうした中で「名実ともに業界のトップを目指す」という長期目標の達成に向け、18年度は新中期3カ年経営計画がスタートする。コンプライアンスを第一に、新規事業を含めさらなる収益力の向上を図り、トップを目指すための経営強化に踏み出す。

同時に、担い手確保や多様な働き方を実現するた

めの働き方改革を進める必要

がある。働き方改革の実現には生産性向上が不可欠だ。働き方改革と生産性向上を合わせて、18年は会社を発展させるための勝負の年になる。

4月からは、昨年策定した「働き方改革実行計画」をスタートさせ、長時間労働の削減に向けた役職員の意識改革や書類の簡素化、協力会社の育成などに取り組む。

生産性向上ではまず、ICT

(情報通信技術) 舗装の定着が最優先だが、当社独自の技術、省力化技術、IoT(モノのインターネット)技術、プレキャスト化に関わる技術や製品の開発を、不転の決意で進める。

今後の成長には新事業分野への挑戦も必要になる。一般土木や維持修繕分野、建築事業の強化、コンセッション

(公共施設運営権)への参入、中国をはじめ東南アジアでの事業展開も模索する。

## 収益力向上へ新事業展開